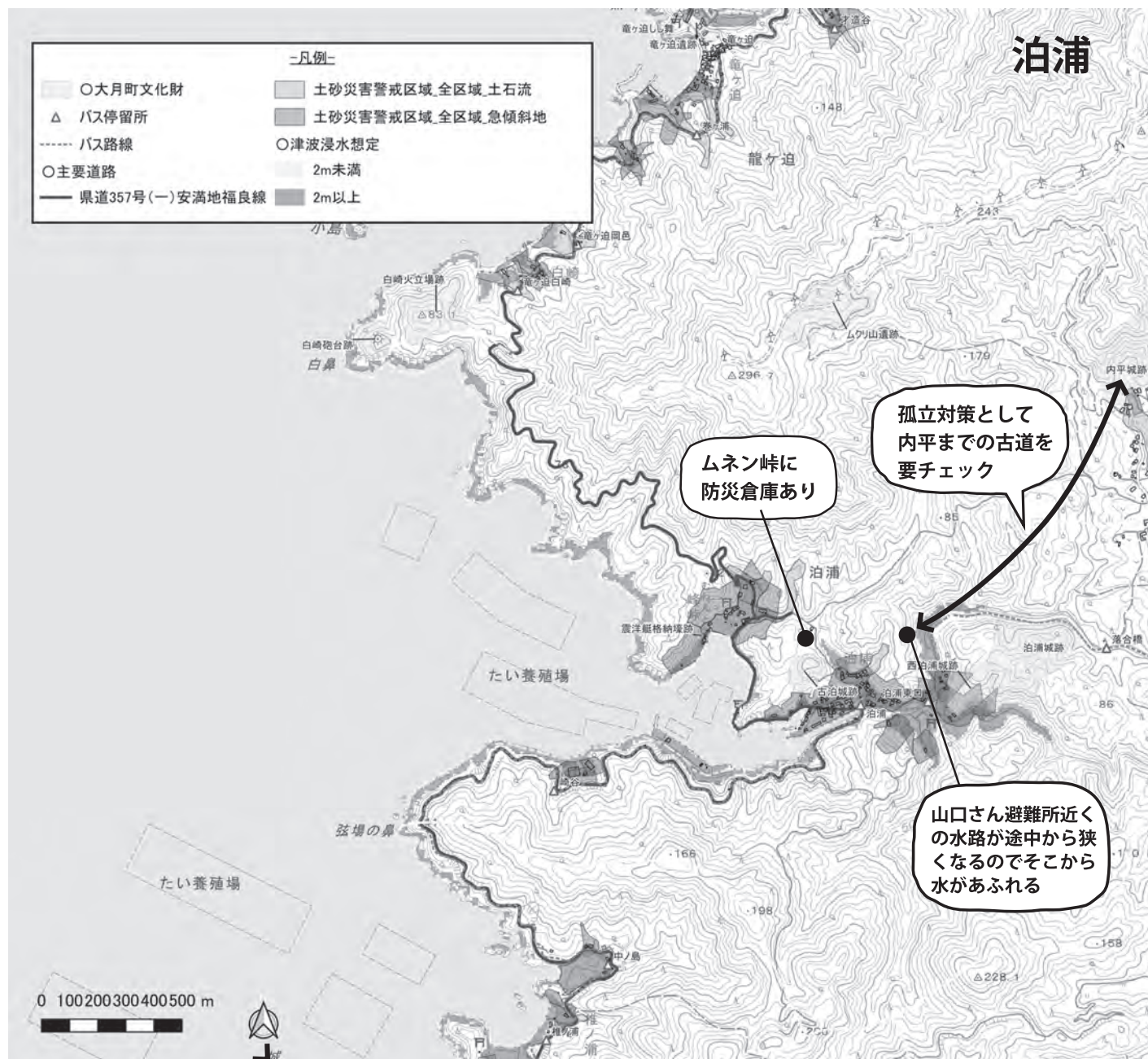




『事前復興まちづくり計画策定の流れ(予定)』

令和7年度以降も計画策定にあわせて、継続的に地区での話し合いの場を設けます。皆さまの意見をもとに、地区毎の復興まちづくり計画としてまとめていきます。

※以下は予定のため、今後変更になる可能性があります

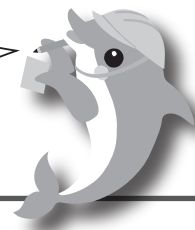
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
計画策定の取組	→ 計画策定			
有識者委員会等	▼	▼	▼	▼
地区での検討	第1回(今回) 地区の状況を共有する	第2回(仮) 復興目標を考える	第3回(仮) 土地利用を考える	第4回(仮) 地区での準備を考える
				パブリックコメント

お問い合わせ

大月町役場 総務課 危機管理室
〒788-0302 幡多郡大月町弘見 2230 番地
Tel : 0880-73-1140 Fax : 0880-73-1380



大月町事前復興まちづくりの様子をホームページやInstagramで発信しています！ぜひフォローしてください！



大月町 事前復興 まちづくり かわら版

泊浦

第1号

**事前復興計画に向けた地区座談会を開催。
地区についてたくさんの意見がでました！**

2024年12月6日(金) 13:30~15:30、泊浦集会所にて事前復興計画に向けた地区座談会を行いました。

地区座談会では、地区にお住まいの皆さまで改めて地区の状況を共有することを目的に、まずは、被災後も残していきたい「地区の強み・魅力」、復興まちづくりに併せて解消したい「地区の弱み・課題」を出し合いました。

その後、「地区の魅力を伸ばす」「地区の課題を解決する」ためのアイディアを出し合い、最後に「復興まちづくりの方向性」を話し合いました。

今回の結果を踏まえ、来年度以降も地区での話し合いの機会を設けていく予定ですので、今回ご都合がつかなかった方を含め、多くの皆さまのご参加をお待ちしています。



令和6年度から8年度まで事前復興の取組として、沿岸18地区の皆さまと話し合いを行います。

大月町は東日本大震災後から続けている避難路整備を始めとした町民の皆さまの命、生活を守り繋げる「防災」の取組と併せて、令和5年度より、災害が発生した際にどのように町や地域を復興するのかを予め考える「事前復興」の取組を開始しました。特に、南海トラフ地震による津波で被害の発生が危惧される沿岸18地区において、令和9年度の計画策定を目標に、令和6~8年度までの3年間、地域の皆さまと話し合いをしながら、地区別に復興の形を一緒に考えていきます。



大月町役場 泊浦の担当職員の紹介

令和9年度の計画策定にむけ、4名の町職員が地区担当職員として地域での話し合いを支援します。



林 圭佑 平田 竜也 岩切 沙弥香 岡田 倫幸

先日の座談会を終え、皆さんが日ごろ感じている不安を「何とかしたい」という思いが強くなりました。皆さんの思いを事前復興に乗せ、大切な日常や人、ものを守ることができるよう、住民の一人として、一緒に考えていきます。よろしくお願いいたします。

皆さまと話し合った内容を
2~4ページにまとめています。

自然環境が良い！

良さ

- ・大月が1番
- ・海があり港がある
- ・ボラが沢山いる（川に上がってくるのを見るのが楽しい）
- ・九州が見える（天気が悪くなる前日に見える）
- ・景色が良い
- ・古泊へ散歩する（夕日がすごくきれい）

漁業・港のこと

良さ

- ・泊浦の港はヨットハーバーな感じでおしゃれ
- ・遊漁船がとまっている（県が設置、弘見の人の船）

課題

- ・平成13年に宿毛港と合併して漁業が衰退
- ・釣り客の車が路上に合って邪魔になっている



暮らしのこと

良さ

- ・弘見が近い
- ・区民同士の声の掛け合いが多い
- ・人情がある
- ・人が優しい
- ・困った人がいたら放っておけない
- ・人口が少ないからこそみんなのことが分かる
- ・女性部は人数が少ないがまとまっている
- ・集まる場所がある
- ・健康体操、輪投げを毎週水曜日にしている
- ・地区の行事の参加率が高い
- ・空き家が数える程度しかない
- ・毎週水曜日体操、輪投げ5~6人が集まる
- ・健康な人が多い足腰が丈夫（100歳が2人いる）
- ・移動販売がある
- ・空き家を活用してインドネシアの人が移住している（漁業関係の人）
- ・ホットセンターは近い
- ・昔は盆踊り、お祭り（もち投げ）、カラオケもよくやっていた

課題

- ・若い人がいない、老人が過半数（小学生は2、3人）
- ・他人事、人任せ（自分事として考えられていない人が多い）
- ・区民に参加しない人がいる（今は付き合いがなく、寂しくなってしまった）
- ・地区行事は一件一人の参加でよしとしている
- ・行事に若者の参加がない
- ・時間を守れない
- ・活発な発言が出ない
- ・空き家が多い（揺れた時不安）
- ・家を再築する力がない
- ・大月には眼医者がない（宿毛までいかないといけない）

アイデア

- ・中間管理（住宅を増やす）

防災について

良さ

- ・防災意識が高い
- ・毎年避難訓練をしている（サイレンが鳴ると決まった場所に逃げるようになっている経路も確認できている）
- ・自販機が災害時に無料になる
- ・防災無線があるので安心（屋内にあるからよく聞こえる、文字でも残るので後からも確認できる）（古泊は防災無線が聞こえにくい）
- ・井戸が4つある
- ・ムネン峠に防災備蓄庫にいろいろ備蓄している
- ・避難港になっている

課題

- ・防災対策があまりできていない
- ・古泊の無線が聞こえない
- ・避難場所に屋根がない
- ・避難できる建物がない
- ・テントなど実際に組み立てたことがない
- ・避難経路が危険（険しかったり、崩れている箇所があったりする）
- ・クボタ山避難所への旧町道に倒れそうな大きな木がある（木を切って欲しい）
- ・若い人がいた方が避難時に安心（高齢で自力で避難できないから心配）
- ・防災対策があまりできていない
- ・山崩れなどの危険が多い
- ・地区行事は一件一人参加で良いとしている
- ・行事参加は全員の考えなし
- ・災害の後のことを考えたことがない（今回が初めて）
- ・川の砂を撤去する
- ・孤立しないために道路の強化
- ・車いすがない

アイデア

- ・避難道の再整備（道が塞がらないように砂防整備）
- ・津波浸水域を1~2m嵩上げて欲しい

道路・公共交通のこと

良さ

- ・バスを利用して助かる（病院に行く時など）
- ・町の中心部に近い
- ・泊浦から弘見までの道が良くなった

課題

- ・公共交通の便が悪い
- ・ダンプカーなど大きな車両がよく通り、音がうるさい

まちづくりの方向性

- 地域の集まり・つきあいを大切にしまちづくり
- ・地区のコミュニティを継続したい（元の場所に戻りたい）
- ・定期的に集まるコミュニケーションの場を作る（役場とも）
- ・若い人も参加しやすい時間でイベントを開催する
- ・他人事にならない雰囲気づくり

- 災害に備えたまちづくり
- ・井戸の再生、点検（ムネン峠の井戸も管理を継続する）
- ・住宅の耐震化
- ・高齢者や歩きに自信がない人のために車で逃げられる避難場所があるとよい
- ・地区で誰が誰を助けるか、手伝うかを一覧に共有しておく（様式だけでも町からもらえれば話し合いも進むのではないかな）
- ・高台の整備
- ・避難道の整備
- ・集会所が高台にあるとよい
- ・夜間の避難もできるようにソーラーの街路灯がほしい
- ・避難するとき人を運ぶものがあるとよい

- 孤立対策
- ・内平までの古道を要チェック